

提 言 書

平成 23 年 3 月
田辺市社会教育委員会議

- 目 次 -

1	はじめに	2
2	提言		
	【提言 1】 人材育成について	3
	【提言 2】 学社融合の推進について	6
	【提言 3】 地区公民館・分館の活性化について	8
3	次期社会教育委員のあり方（引き継ぎたい想い）	11
	参考資料	12

1 はじめに

平成 17 年 5 月 1 日に 5 つの市町村（田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、本宮町）が合併して新たに誕生した田辺市では、「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」を基本理念とした『第 1 次田辺市総合計画』を策定し、まちづくりの基本方向の 1 番目に「人をはぐくむまち」を掲げ、まちづくりの基本は人づくりという観点をしっかり示しています。

また、平成 20 年 3 月に策定された、『田辺市生涯学習推進計画』では、「人をはぐくみ 人をつなぎ 地域を創る 生涯学習のまち・田辺」を基本理念とし、市民一人ひとりが学びを通して自己を高め、学びの成果が地域で生かされ、地域づくりにつながる市民を主体とした生涯学習社会づくりに取り組んでいます。

この『田辺市生涯学習推進計画』策定にあたっては、社会教育委員全員が計画策定の懇話会委員に就任し、出来るだけ多くの市民の声を反映させようと、合併後の各地域の現状把握に努めるなど、市民と行政のつなぎ役としての役割を果たしてきました。

さらに、この計画を具体的に推進するために掲げた、6 つの重点アクションプランをより実効性のある取組にするために、平成 21 年 4 月に任命された今期の社会教育委員自身が企画の段階から内容や運営等に直接関わっていくという役割を担ってきました。

こうした活動の原点は、計画策定の懇話会委員長であった、堀内秀雄先生（和歌山大学生涯学習教育研究センター長【当時】）から、「作成時、真砂市長は日本一の生涯学習計画を作ると言われた。日本一の計画を推進するためには、日本一の社会教育委員が必要になる」「行動する社会教育委員であれ」との激励があったからです。

そこで、私たち委員は改めて、「社会教育委員として何が出来るのか。何をしていかななくてはいけないのか。」という基本的な役割について全員で話し合い、その結果、目標や行動計画を立て実践していく必要があるとの結論に達しました。

また、社会教育委員会議定例会においても、これまでの報告中心の形から、もっと委員同士の協議時間を多く取る方向に重点を置き会議を進めてきました。そして平成 22 年度からは、これからの田辺市を担う人材育成、学校と地域の橋渡しのあり方を検討する学社融合の推進、地区公民館・分館の活性化、の 3 つの課題を設定し、検討を重ねてまいりました。

約 1 年間という短い期間ではありましたが、いずれのグループ内でも活発な議論が交わされ、また、机上の空論にならないよう実際に現地に出向き調査・研究を行ってきました。そして、その集大成として田辺市が今後様々な事業を進めていくにあたり、大切にして欲しい視点や留意点について、社会教育委員会議として意見を取りまとめました。

この提言が田辺市の生涯学習推進施策や、地域活動の推進に少しでも反映されることを願います。

2 提 言

【提言 1】 人材育成について

なぜ、人材育成なのか

田辺市が将来にわたり、地域を持続・発展させていくためには、市民と行政の協働による「地域づくり」を進めていく必要があります。「地域づくりは人づくり」と言われますが、地域の活動をつなげ、活性化させるためには、その活動の中心となる人材の育成が必要です。

私たちグループは、田辺市生涯学習推進計画が掲げる「6つの重点アクションプラン」のひとつである、公民館と連携して地域づくりを支える人材の育成を目指した「地域コーディネーター養成講座」への参加や企画・運営等に関わってまいりました。また、平成23年度から開設する「まちづくり市民カレッジ」の素案作りを協議するとともに、先進地である岸和田市の取組を視察してまいりました。

こうした取組を通して、改めて人材育成の必要性を強く感じるとともに、地域が抱える様々な課題を市民自らが考え、参加し、解決していく人材を育成するために、今後、教育行政に反映していただきたい大切な視点や、人材を活かす場づくり・仕組みづくりについて、ここにまとめて提言いたします。

提言

【1】人材育成の目的：実践できる人

地域が抱える様々な課題を自らの課題と受け止め、その解決に向けて意欲を持って取り組める人を育てることが必要です。

元気な地域をつくるためには、学習機会などを通して気づきや変化をもたらした人が、それぞれの個性や能力を活かしながら行動に移していくことが必要です。

< 人材育成の目的を明確化 >

人材育成として「実践できる人」を育てることが最終的な目的であり、元気な地域をつくるための「核」となる人を増やすことが重要です。

< 個性や能力を生かす >

「つなぐ人」、「仕掛ける人」、「支える人」など、それぞれ役割がありますが、その人の個性や能力に合った活動を、日常生活の場や地域で実践できる意欲ある人を育てることが重要です。

【2】人材育成の機会：場づくり

人材育成にかかる講座や、学習会を企画するにあたっては、行政職員のみで内容の検討を行うのではなく、様々な業種、地域、年齢、性別の方々と構成される企画委員会を設置し、より市民が参加しやすい内容を検討することが必要です。

講師は、学識経験者だけでなく、外からの風を吹き込んでくれるＩターン、Ｕターン、又は地元で頑張っている方々などの協力も得ながら進めていくことが必要です。

目的を明確にした企画や内容であり、地域の課題や問題を自らが考え、発言し、能動的に関われる講座内容であること。また、市民が参加しやすい「ネーミング」や「企画内容」であり、楽しみながら受講できることが必要です。

< 異業種・異年齢の参画 >

気づきや変化をもたらすための人材を育成する機会や場をどのように設定し、企画・運営していくかは非常に重要なポイントになってきます。幅広い参加者を募集する上で、地区公民館からの推薦や、異業種、異年齢などの方々に参加していただくための仕組みづくりが重要です。

【3】人材を活かす仕組みづくり

地区公民館を中心に、講座や学習会を修了した人々に対して、公民館活動や地域づくり活動などへ協力要請を行うとともに、活動の場を提供することが必要です。

講座や学習会の修了生を「一人にしない」ことが大切であり、定期的に交流することや、新たな「学びの場」を提供し続けることが必要です。

人材を活かすためには、公民館の役割は不可欠です。各公民館が互いに連携し、それぞれの地域の人材情報を共有し、活用することが必要です。

< 学んだ人を次へつなげる >

講座や学習会を修了された方が、次回には立場を替えて企画や実行委員会側へ参画できるような体制づくりが重要です。

また、「実践できる人」が日常生活や地域で活動できる環境づくりや、「人」と「人」との繋がりを深める仕掛けを作ることが重要です。この人と人とのつながりの深さが、教え教えられ共に育つ共育コミュニティの推進や人材育成の基盤となります。

活動実績

日時	会議等	場所	内容
平成22年 6 月 10 日	まちづくり市民カレッジ打合せ	市民総合センター	まちづくり市民カレッジの打合せ
平成23年 1 月 26 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
2 月 2 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
2 月 26 日	きしわだ市民カレッジ視察	岸和田市	先進地視察



きしわだ市民カレッジ視察の様子



グループ協議の様子

グループ 構成委員

チーフ：久保 正博 （田辺市社会教育委員会 議長）
 田ノ岡 比呂志
 山本 純司
 近藤 信子

【提言 2】 学社融合の推進について

なぜ、学社融合なのか

田辺市の小中学校における学社連携・学社融合実践については、「子どもたち、地域住民のため・・・」という視点で、何校かを訪問して来ました。取り組みでは、それぞれの学校も様々な工夫や知恵を出し、地域住民の協力を得て特徴ある授業展開を行っていることもわかりました。

以上の観点から、私たちグループでは、より学社融合を推進するため、また、生涯学習社会を構築するために、学校・公民館（地域社会）の果たすべき役割について協議し、共有すべき点などをここにまとめ提言いたします。

提言

【1】組織づくり

地域住民の方々には、奉仕的な活動になるので、やらされ感を感じてしまうと長続きしません。そのためには、学校と公民館が協働してしっかりした組織作りが必要です。

<学校や地域の想いを共有する場>

学校・保護者・公民館・地域住民が、子どもたちのためにそれぞれの力を結集すれば、素晴らしい取り組みができると思います。

しかし、この4者間を調整する組織が構築できていないため、単発的な取り組みに終わったり、どちらかに過大な負担がかかったりすることが多くあり、日常的な教育の一環としての協力関係は、まだまだ出来ていないところが多くあります。4者を結ぶ組織づくりが重要です。

【2】つなぐ・いかす・たかめる

学社融合を進め、子どもたちを取り巻く環境をより良くしていくためには学校と地域の想いをつなぐ役割を担う人材（コーディネーター）が必要です。

地域住民はなかなか学校には入って行きにくいものです。学校・公民館は常にそのことを意識し、積極的な情報発信が必要です。

各地域で活動するコーディネーター同士が支え合える情報交換の場や、コーディネーター力を高める研修の場が必要です。

<つながりをつくる場>

子どもたちと地域住民がお互いに顔を覚え、気軽に声を掛け合えることでコミュニケーション力がつき、来校者にも自然に挨拶ができるようになります。私たちが訪問した学校でも1度目と2度目でははっきりと変化が感じられました。子どもたちと住民が互いに顔合わせる機会や仕掛けが重要です。

【3】楽しさ・よろこび・生きがいを生み出すために

「子どもたちのために、地域住民のために」という共通意識をしっかりと持ち学社融合のねらいを確認しておく必要があります。

学校・保護者・公民館・地域住民が共に学び、共に成長する場が必要です。

<活動を継続していく場>

活動は、楽しさ・よろこび・生きがい生まれないと次のエネルギーが蓄積されません。

また、多くの学校では、図書ボランティア活動を始め、各教科の授業や総合的な学習の時間にゲストティーチャーとして参加するなど、さまざまな取り組みが行われています。このような活動は、生涯学習の場として自分を高めていく励みにもなっています。楽しさ・よろこび・生きがいを大切にする取り組みが重要です。

活動実績

日時	会議等	場所	内容
平成22年 6月 28日	本宮中訪問	本宮中学校	授業見学 図書ボランティアとの懇談会
6月 29日	上芳養小訪問	上芳養小学校	授業見学 先生方との懇談会 給食体験
11月 25日	田辺第一小学校・中部公民館の取り組みを見学	中部公民館	読書活動推進部の絵本の読み聞かせ講座を見学。
平成23年 2月 2日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
3月 9日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議



上芳養小学校訪問の様子



グループ協議の様子

グループ 構成委員

チーフ：高垣 幸代 （田辺市社会教育委員会議 副議長）
 平野 雅裕
 千品 雅彦
 鈴木 真紀
 川根 喜彦

【提言 3】 地区公民館・分館の活性化について

なぜ、地区公民館・分館の活性化なのか

田辺市では平成17年5月1日に5つの市町村が合併して誕生しました。合併から5年が経過し、合併による効果や課題が出てきました。特に龍神、中辺路、大塔、本宮地域では、さまざまな地域課題が存在します。地域課題の解決においては、まず住民が自ら課題を受け止め、課題の本質や先進地での解決方法を学び、共感する人を繋いでいくことが求められます。まさにこのような時こそ、公民館の出番なのです。

全国的に公民館を取り巻く環境は厳しくなっています。カルチャーセンター化、首長部局への移管、指定管理の導入など、公民館の本質や根源的な役割を捉えず、機能論や財政論という狭い物差しでの政策遂行が絶えません。そのような中、田辺市には19人の公民館主事と20の地区公民館・18の分館という財産があります。

私たちグループでは、地域課題の解決、地域の活性化には「学び」を通じた実践が必要との認識のもとで、今一度、この地区公民館・分館の活性化を目指すべく、検討を重ねてきました。このプロセスでは大塔公民館三川分館をモデルとしながら、また、分館長ヒアリング、公民館主事からのヒアリング、グループメンバー同士での議論を経て参りました。

そのような中、3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震では、被害を受けた地域の避難所として公民館が利用されているところもあります。宮城県名取市の公民館では、館長さんが避難した住民に寄り添い、励まし続けたことも報道されました。公民館の役割はまさに地域コミュニティの中核拠点であり、公民館長は地域に頼りにされる幅広い役割があります。単に館や肩書きだけではない、地域を支え、地域に寄り添う公民館や公民館長が求められています。

こうした観点から、地区公民館・分館の活性化に向けて取り組んでいただきたい点を、ここにまとめて提言いたします。

提言

【1】ライン・パイプの複線化（SOSのルートを複線に）

社会教育委員 教育委員会事務局 主事 館長・分館長 地域などの主体間には、さまざまな意思伝達の「パイプ」があります。この「パイプ」が単線だとそこが詰まってしまった時に、前に進むことが出来ません。出来る限り主体間の「パイプ」は複線になるような仕掛けが必要です。

<ライン・パイプの複線化を目指すために>

定期的な現場訪問制度（社会教育委員 公民館／中央公民館 地区公民館・分館など）

最前線の現場を支えるために、社会教育委員や中央公民館のスタッフが、定期的に現場を訪問することが重要です。

異業種・異分野との相談窓口や担当者情報を提供（県、大学、市民活動、社協など）

さまざまな関係者に相談できるよう、その相談窓口の情報を公民館長や主事の皆さんに提供することが重要です。

市長、教育長、教育委員との懇談会、意見交換会の実施

教育委員会の幹部の皆さんと直接意見交換が出来る場が重要です。

【2】主事力の最大化／館長・分館長力の最大化（孤独にさせない仕組みづくりも）

地区公民館・分館の活性化には、その中心となる「人」である主事、館長・分館長の力が大切です。主事、館長・分館長の力を最大限に発揮するためには、孤独にさせない仕組みづくりや課題を乗り越える内発的な力が必要です。

<主事力の最大化／館長・分館長力の最大化を目指すために>

主事会の強化（月2～3回の開催へ）

主事同士のヨコのネットワークを高め、さまざまな相談ができる関係作りのために、主事会の開催頻度を高めると同時に、今抱えている課題について相談しあえるプログラム編成が重要です。

テーマ別など地区館・分館長研修

地区公民館・分館の活性化や事業展開、公民館と地域との関係などを、地域に即した研修にするためにも、テーマ別の館長研修が重要です。

主事を単年度で異動させない

主事と地域の間関係・信頼関係構築のためにも、主事は出来る限り複数年度で配置することが重要です。

【3】地区公民館・分館を支える基盤整備

地区公民館・分館の活性化のために、ソフト面での基盤整備を行うことが大切です。地区公民館・分館を「地域みんなで」支えるしくみにするためにも、情報発信力の強化や公民館を支えるブレンづくりが必要です。

<地区公民館・分館を支える基盤整備を目指すために>

地区公民館・分館支援モデル事業（指定型事業）

自主的に手を挙げて、かつ選考した公民館に対して、ヒト・モノ・カネを集中的に支援するようなモデル支援事業が重要です。

地区公民館・分館の情報発信力を強化

地域の中での公民館の存在を知っていただくためにも、「公民館だより」の拡充や広報手段の刷新（インターネット発信など）と同時に、「一館一事業」としてひとつは分館主催の事業を実施することが重要です。

地域の関係者を広く巻き込んだ運営委員会の設置・活発化

公民館運営に幅広い意見を頂くと同時に、一緒に行動していただける人を発掘するためにも、公民館運営委員会の設置、ならびに活性化は重要です。出来ればメンバーには、地域のキーパーソンだけでなく、NPO関係者や地域コーディネーター養成講座修了生、民生委員、PTA、消防団などの異業種・異分野からの参画が重要です。

活動実績

日時	会議等	場所	内容
平成22年 4 月 29 日	第22回百間山溪谷若葉まつり	百間山溪谷 キャンプ村	三川分館の取り組みとして全委員に案内。当日は4名の委員が参加
5 月 13 日	三川運営委員会	三川集会所	H21事業実施報告 H21決算報告及び監査報告 H22事業計画、監査員の選出
9 月 7 日	三川運営委員会	三川集会所	グラウンドゴルフ大会について 三川小学校通学合宿について 他
9 月 15 日	龍神地域分館長との協議	龍神市民センター	龍神地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
10 月 26 日	大塔地域分館長との協議	大塔総合文化会館	大塔地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
11月7日～9 日	三川通学合宿	三川分館	2名の委員が参加
11 月 8 日	中辺路地域分館長との協議	中辺路コミュニティ センター	中辺路地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
11 月 21 日	三川お楽しみ会	三川小学校	2名の委員が参加
12 月 15 日	本宮地域分館長との協議	本宮行政局	本宮地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
平成23年 1月4日～12 日	主事アンケート		地区館・分館の全主事を対象にアンケートを実施
1 月 17 日	主事アンケートをうけての検討会議	大塔総合文化会館	主事アンケートを受けて検討会議
1 月 18 日	公民館主事とのディスカッション	中部公民館	主事アンケートを受けてディスカッション
2 月 17 日	グループ協議	大塔総合文化会館	提言に向けて協議



大塔地域分館長との協議の様子



グループ協議の様子

グループ 構成委員

チーフ：西川 一弘
久保 智彦
澄口 安子
岡本 勝

3 次期社会教育委員のあり方（引き継ぎたい思い）

私たち13名の社会教育委員は、「行動する社会委員」として2年間実践してきました。この2年間の実践を振りかえり、委員一人一人の想いをまとめますと、委員自身が大きく変わったことに気づかされました。

我々委員としては、この「学びと気づき」を2年で終わらせるのではなく、是非とも引き継いで行ってもらいたく、次期社会教育委員のあり方についてまとめました。

今後の社会教育委員会議の人選や、運営に反映していただきたいと思います。

【1】委員が学び、行動し、発信すること

委員同士が協働し、また委員と事務局が協働し、「学び、行動し、発信する」ことが重要です。社会教育委員は飾りではありません。待っているだけでは、真の社会教育行政は展開できません。

委員のことは

- ・楽しさをもつこと
- ・連帯感をもつこと
- ・人間関係性を大切にすること
- ・学び、考え、行動すること
- ・発言すること
- ・発信すること

【2】現場へ足を運ぶこと

常に現場からの意見を大切にしながら、「現場をどう支えられるのか」という思いが重要です。地域の課題は、会議室で議論しても解決できるものではありません。

委員のことは

- ・地域での活動を推進すること
- ・行動なくして前進無し

【3】事務局との協働を大切にすること

委員と事務局の協働が重要です。事務局は単なる説明要員や準備要員ではありません。

委員のことは

- ・教育委員と連携すること
- ・事務局と連携すること
- ・互いを尊重すること
- ・継続的なつながりをもつこと
- ・飲み二ケーションも大切にすること

資 料

- ・ 田辺市社会教育委員会議の活動実績（グループ協議）
- ・ 田辺市社会教育委員会議 委員名簿
（任期 平成 21 年度～平成 22 年度）

平成22年度 田辺市社会教育委員会 活動実績（グループ協議）

定例会

日時	会議等	場所	内容
平成22年 5 月 28 日	第1回定例会	中部公民館	各課説明・報告 グループ協議
7 月 23 日	第2回定例会	市民総合センター	各課説明・報告 グループ協議
9 月 10 日	第3回定例会	東部公民館	各課説明・報告 グループ協議
11 月 25 日	第4回定例会	市民総合センター	各課説明・報告 グループ協議
平成23年 1 月 20 日	第5回定例会	市民総合センター	各課説明・報告 グループ協議
3 月 22 日	第6回定例会	市民総合センター	各課説明・報告 グループ協議（提言のまとめ）

グループ協議の取組について

日時	会議等	場所	内容
平成22年 5 月 19 日	グループチーフ打合せ	市民総合センター	グループ協議の内容について、 グループチーフによる打合せ会
1 月 14 日	グループチーフ打合せ	市民総合センター	グループ協議の内容、提言のまとめに ついてグループチーフによる打合せ会
平成23年 3 月 11 日	グループチーフ打合せ	市民総合センター	提言のまとめについてグループチーフ による打合せ会

グループ 重点アクションプラン（人材育成）についての研究協議 （チーフ：久保議長、田ノ岡委員、山本委員、近藤委員）

日時	会議等	場所	内容
平成22年 6 月 10 日	まちづくり市民カレッジ打合せ	市民総合センター	まちづくり市民カレッジの打合せ
平成23年 1 月 26 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
2 月 2 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
2 月 26 日	きしわだ市民カレッジ視察	岸和田市	先進地視察

グループ 学社融合の推進についての研究協議

(チーフ：高垣副議長、平野委員、千品委員、鈴木委員、川根委員)

日時	会議等	場所	内容
平成22年 6 月 28 日	本宮中訪問	本宮中学校	授業見学 図書ボランティアとの懇談会
6 月 29 日	上芳養小訪問	上芳養小学校	授業見学 先生方との懇談会 給食体験
11 月 25 日	田辺第一小学校・中部公民館の取り組みを見学	中部公民館	読書活動推進部の絵本の読み聞かせ講座を見学。
平成23年 2 月 2 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議
3 月 9 日	グループ協議	市民総合センター	提言に向けて協議

グループ 地区公民館、分館の活性化についての研究協議

(チーフ：西川委員、久保智委員、嵯峨委員、岡本委員)

日時	会議等	場所	内容
平成22年 4 月 29 日	第22回百間山溪谷若葉まつり	百間山溪谷 キャンプ村	三川分館の取り組みとして全委員に案内。当日は4名の委員が参加
5 月 13 日	三川運営委員会	三川集会所	H21事業実施報告 H21決算報告及び監査報告 H22事業計画、監査員の選出
9 月 7 日	三川運営委員会	三川集会所	グラウンドゴルフ大会について 三川小学校通学合宿について 他
9 月 15 日	龍神地域分館長との協議	龍神市民センター	龍神地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
10 月 26 日	大塔地域分館長との協議	大塔総合文化会館	大塔地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
11月7日～9 日	三川通学合宿	三川分館	2名の委員が参加
11 月 8 日	中辺路地域分館長との協議	中辺路コミュニティ センター	中辺路地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
11 月 21 日	三川お楽しみ会	三川小学校	2名の委員が参加
12 月 15 日	本宮地域分館長との協議	本宮行政局	本宮地域の分館長との懇談会 (分館運営における現状、課題)
平成23年 1月4日～12 日	主事アンケート		地区館・分館の全主事を対象にアンケートを実施
1 月 17 日	主事アンケートをうけての検討会議	大塔総合文化会館	主事アンケートを受けて検討会議
1 月 18 日	公民館主事とのディスカッション	中部公民館	主事アンケートを受けてディスカッション
2 月 17 日	グループ協議	大塔総合文化会館	提言に向けて協議

田辺市社会教育委員会議 委員名簿
(任期 平成 21 年度～平成 22 年度)

氏 名	役職	備 考
平野 雅裕		上芳養小学校長
千品 雅彦		NPO 法人市民活動フォーラム理事長
田ノ岡 比呂志		牟婁商工会事務局長
鈴木 真紀		ブックサークル「ぐりとぐら」代表
川根 喜彦		元田辺市 P T A 連合会長
山本 純司		田辺市青年ネットワーク会長 平成 20・21 年度地域コーディネーター養成講座修了生
近藤 信子		平成 20 年度地域コーディネーター養成講座修了生
西川 一弘		和歌山大学南紀熊野サテライト 地域連携コーディネーター
高垣 幸代	副議長	
久保 正博	議 長	龍神教育事務所選出
久保 智彦		中辺路教育事務所選出
澄口 安子		大塔教育事務所選出
岡本 勝		本宮教育事務所選出